

## 油絵具のブラック

## ブラックを使う難しさ

「ブラックは使うのが難しい」。そう思っているアーティストは多いようです。多用すると絵が濁ってしまうからです。原因は画面の彩度の低下です。黒は入射光のほとんどを吸収するため、他の絵具にブラックが混ざると、画面の彩度が落ちて、色が鈍く、濁って見えるようになります。そのためブラックを使わず、補色の混色で黒みを与える手法を好むアーティストがいます。画面の彩度を落とすことなく、黒み感が得られるからです。しかし、油絵具のブラックは高濃度で使えば黒そのものですが、ホワイトやその他の絵具で薄めていくと、無彩色から青みのある黒になったり、温かみのあるグレイや赤みのある黒になったりします。ブラックに使われている黒色顔料が、種類によって違うからです。以下に代表的なブラックの種類と顔料、特徴を紹介します。

## ■アイボリ ブラック

炭化させた動物の骨(骨灰)を顔料とした、赤みのあるブラックです。ホワイトに混ぜると、赤みのあるグレイがつけれます。昔は象牙(アイボリ)を使っていたため、この名で呼ばれています。

## ■ピーチ ブラック

昔は桃の種を焼いて顔料にしたことから、こう呼ばれます。現在は縮合アニリン系の顔料でつくられています。色は暖色と寒色の中間調。漆黒度が高く、見た目にいけば黒いブラックです。

## ■ランブ ブラック

油が不完全燃焼したときにできる煤が顔料です。青みのある黒です。つやはありません。ホワイトを混ぜると落ち着いたグレイになります。

## ■ブルー ブラック

「ブラック」と名はついていても、ウルトラマリンの顔料が含まれた黒に近い青です。ホワイトで薄めると青みが強く出ます。青みがあがることで、黒が引き立って見えます。

写真は4種類のブラックの頭色(濃く塗った場合)、腹色(薄く塗った場合)、ホワイトを混ぜた場合の色の変化を示したものです。同じ黒でありながら、微妙に色が異なっています。しかし、あくまでも塗り見本。メーカーや用いる白色顔料の種類によって色味は変わってくるので、実際にご自身で試されることをお勧めします。でも、それぞれのブラックの特徴を知っておけば、画風やテーマに合わせて、最適なブラックを使い分けることができるのではないのでしょうか。

## アイボリ ブラックのカビ対策

4種類のブラックの中で、アイボリブラックを使う場合に注意しなければならぬことがあります。カビです。原料の骨は、炭素とともに大量のリン酸カルシウムを含んでいます。リン酸カルシウムを養分に、カビが生育するからです。アイボリブラックには防カビ剤が配合されていますが、完成した作品を湿度の高い環境に長時間置いておくとカビが生えるおそれが出てきます。カビを防ぐためには、湿気の少ないところに保管するとともに、カビ対策を講じておくとうよいでしょう。

有効なのは、防カビ成分を含む保護ワニスを完成した作品にかけることです。ホルベインの水彩保護ワニス(防カビ スプレー)を用いることをお勧めします。水彩保護ワニスと銘打っていますが、油彩画面に用いても支障ありません。直接施すと後で除去するのが困難なので、タプロード画面に遮断層を設け、その上に施します。日用品売場で売っている防カビ スプレーもありますが、作品まで壊してしまう成分の含まれている可能性があるため、使わない方が無難です。

アイボリ ブラック

ピーチ ブラック

ランブ ブラック

ブルー ブラック

※参考資料:ホルベイン工業技術部編「絵具の事典」(中央公論美術出版)など

holbein

ホルベイン絵具

ホルベイン絵具に関する  
ご質問・ご相談は…

ホルベイン絵具 技術サービスセンター TEL.0729 (85) 1223  
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52  
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)